

# 特定非営利活動法人工ジミウソンファンズ・アジア 定款

## 第1章 総 則

### (名 称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人工ジミウソンファンズ・アジアという。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都港区東麻布一丁目23番3号東麻布アパートメント901に置く。

### (目 的)

第3条 当法人は、広く子供たちを対象として、参加費無償のサッカー教室の企画・開催、経済的な理由によりサッカーを継続できない子供たちへの給付型奨学金の提供、在日ブラジル人と日本人との交流を図り双方の理解を深める事業等を行い、子供たちに「夢」の持つ重要性やその魅力を伝えるとともに夢を追求する勇気を与え、サッカーを通じて運動の楽しさや身体を動かすことの喜びを体験できる場を提供し、経済的背景に関わらず子供たちのサッカーやその他のスポーツ活動への参加ができるように支援するための奨学金制度を整備することで、次世代を担うリーダーとなる子供たちの成長と夢の実現に寄与することを目的とする。

### (特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (2) 子どもの健全育成を図る活動
- (3) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

### (事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 給付型奨学金の給付事業
- (2) サッカークリニックの開催
- (3) 在日ブラジル人との交流企画
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

2 この法人は、次のその他の事業を行う。

- (1) 寄付された物品の販売事業
- (2) 講演会事業

3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その利益は、第1項に掲げる事業に充てるものとする。

## 第2章 会 員

### (種 別)

**第6条** この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体

(入会)

**第7条** 会員の入会について、特に条件は定めない。

- 2 会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
- 3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 理事長は、第2項の者の入会を認めないとときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

**第8条** 会員は、理事会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

**第9条** 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 正当な理由なく会費を滞納し、催告を受けてもこれに応じず、納入しないとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

**第10条** 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

**第11条** 会員が次の各号の一に該当する場合には、理事会の議決により、これを除名することができる。

- (1) この定款、その他この法人が定める諸規程等に違反したとき。
  - (2) この法人、会員又は職員その他の関係者等に損害を及ぼしたとき。
  - (3) この法人、会員又は職員その他の関係者等の名誉若しくは信用を傷つけ、又はこの法人の目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

### 第3章 役員

(種別及び定数)

**第12条** この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上7人以内
  - (2) 監事 1人以上2人以内
- 2 理事のうち1人を理事長とし、1人以上2人以内を副理事長とすることができます

る。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、理事会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を總理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
  - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
  - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
  - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
  - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
  - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第15条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第17条 役員が次の各号の一に該当する場合には、理事会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
- 2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第4章 会議

(種別)

第19条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第20条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第21条 総会は、以下の事項について議決する。

(1) 定款の変更

(2) 解散及び合併

(総会の開催)

第22条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。

(2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求  
があったとき。

(3) 監事が第14条第5項第4号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

第23条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、そ  
の日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときには、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書  
面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければな  
らない。

(総会の議長)

第24条 総会の議長は、理事長とする。

2 理事長に事故があるときは、副理事長がこれにあたる。副理事長が存しない場合  
は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第25条 総会は、正会員総数の3分の1以上の出席がなければ開会することはできな  
い。

(総会の議決)

第26条 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した  
事項とする。ただし、緊急の場合については、総会に出席した正会員の2分の  
1以上の同意により議題とすることができます。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をも

って決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が、総会の目的である事項について提案した場合において、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(総会での表決権等)

第27条 各正会員の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、前2条及び次条第1項の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第28条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2人が、記名押印又は署名しなければならない。
- 3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録による同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
  - (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
  - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
  - (3) 総会の決議があったものとみなされた日及び正会員総数
  - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

(理事会の構成)

第29条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第30条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) 会員の除名
- (4) 事業計画及び予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員の選任及び解任
- (7) 役員の職務及び報酬
- (8) 入会金及び会費の額

- (9) 資産の管理の方法
- (10) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第47条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (11) 解散における残余財産の帰属
- (12) 事務局の組織及び運営
- (13) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

（理事会の開催）

第31条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 監事から第14条第5項第5号の規定に基づき招集の請求があったとき。

（理事会の招集）

第32条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

（理事会の議長）

第33条 理事会の議長は、理事長又は理事長が指名した者がこれにあたる。

（理事会の議決）

- 第34条 理事会における議決事項は、第32条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した理事の2分の1以上の同意があった場合は、この限りではない。
- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
  - 3 理事が理事会の目的である事項について提案をした場合において、理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

（理事会での表決権等）

第35条 各理事の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

（理事会の議事録）

第36条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあっては、その旨を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人が記名押印又は署名しなければならない。
- 3 前2項の規定にかかわらず、理事全員が書面又は電磁的記録による同意の意思表示をしたことにより、理事会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1) 理事会の決議があったものとみなされた事項の内容
  - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
  - (3) 理事会の決議があったものとみなされた日
  - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

## 第5章 資産

### （資産の構成）

第37条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

### （資産の区分）

第38条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の2種とする。

### （資産の管理）

第39条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第6章 会計

### （会計の原則）

第40条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

### （会計の区分）

第41条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業会計、その他の事業会計の2種とする。

### （事業年度）

第42条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

### （事業計画及び予算）

第43条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度、理事長が作成し、理事会の議決を経なければならぬ。

(暫定予算)

第44条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第45条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第46条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、理事会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第47条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

## 第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第48条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する次に掲げる事項については、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁の変更を伴うものに限る。）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に係るものを除く。）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合には、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る。）
- (10) 定款の変更に関する事項

2 この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

(解 散)

第49条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
  - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
  - (3) 正会員の欠亡
  - (4) 合併
  - (5) 破産手続開始の決定
  - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の議決を経なければならない。
- 3 第1項第2号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第50条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、理事会において議決したものに譲渡するものとする。

(合併)

第51条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならぬ。

## 第8章 公告の方法

(公告の方法)

第52条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページにおいて行う。

## 第9章 事務局

(事務局の設置)

第53条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置することができる。

2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置くことができる。

(職員の任免)

第54条 事務局長及び職員の任免は、理事長が行う。

(組織及び運営)

第55条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第10章 雜 則

(細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

## 附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

- |      |       |
|------|-------|
| 理事長  | 林 善徹  |
| 副理事長 | 青山 隼  |
| 副理事長 | 今井 麻恵 |
| 監 事  | 早川 明伸 |
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から令和 8年 8月 31日までとする。この法人の設立当初の事業年度は、第42条の規定にかかわらず、この法人の成立
  - 4 の日から令和 8年 3月 31日までとする。
  - 5 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
  - 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。  
(1)入会金 正会員（個人・団体） 5,000円 賛助会員（個人・団体） 10,000円  
(2)年会費 正会員（個人・団体） 12,000円 賛助会員（個人・団体） 1口24,000円  
（1口以上）

## 役員名簿

(役員名簿及び役員のうち報酬を受ける者の名簿)

特定非営利活動法人エジミウソンファンズ・アジア

## 1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）  
各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

## 2 役員一覧

	役名 (どちらかに○)	(フリガナ) 氏名	報酬の有無 (どちらかに○)	役職名等
1	理事・監事	〔ハヤシ ヨシアキ〕 〔林 善徹〕	有・無	理事長
2	理事・監事	アオヤマ ジュン 青山 隼	有・無	副理事長
3	理事・監事	イマイ マエ 今井 麻恵	有・無	副理事長
4	理事・監事	ハヤカワ アケノブ 早川 明伸	有・無	監事
5	理事・監事		有・無	
6	理事・監事		有・無	
7	理事・監事		有・無	
8	理事・監事		有・無	
9	理事・監事		有・無	
10	理事・監事		有・無	

令和6年度

## 事業計画書

特定非営利活動法人エジミウソンファンズ・アジア

## 1 事業実施の方針

令和6年度は、サッカーを経済的理由により諦めてしまう子供たちへサッカーを継続できるための給付型奨学金を30人に提供する。また、神奈川県川崎市での定期サッカークリニックを開催し、経済的な問題を抱える家庭の子供たちへの体験機会の提供を通じて、自己肯定感の醸成を図る。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 9,000 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
給付型奨学金の給付事業	高校生以下で、経済的な理由によりサッカーを継続できない子どもたちへ給付型奨学金を提供し、夢を諦めない支援	3月給付	全国	10人	高校生以下でサッカーを継続したい意思のある子供	30人	4,000
サッカークリニック(定期)の開催	習い事に通うことができない家庭の子供たちへ参加費無償のサッカー教室を定期開催し、疑似的な習い事の体験機会を提供(開催場所:川崎)	1回/月	神奈川県川崎市	10人	一般募集及び、NPO法人キッズドアのサポートファミリー	25人/回×12回	3,000
在日ブラジル人交流企画	在日ブラジル人と日本人との交流を図り、双方の理解を深める事業	1回/年	静岡県浜松市ほか	10人	ブラジル人学校の生徒と日本人の子供たち	50人	2,000

## (2) その他の事業

(事業費の総費用【 2,000 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
寄附された物品の販売事業	法人に寄附された物品をオークション等で定期的に販売する	随時	インターネット上	5人	1,000
講演会事業	元ブラジル代表サッカー選手の[ ]による有償の講演会・研修等の実施	随時	全国	4人	1,000

令和7年度

## 事業計畫

特定非営利活動法人エジミウソンファンズ・アジア

## 1 事業実施の方針

令和7年度は、サッカーを経済的理由により諦めてしまう子供たちへサッカーを継続できるための給付型奨学金を40人に提供する。また、神奈川県川崎市での定期サッカークリニックを開催し、経済的な問題を抱える家庭の子供たちへの体験機会の提供を通じて、自己肯定感の醸成を図る。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 16,000 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
給付型奨学金の給付事業	高校生以下で、経済的な理由によりサッカーを継続できない子どもたちへ給付型奨学金を提供し、夢を諦めない支援	3月給付	全国	10人	高校生以下でサッカーを継続したい意思のある子供	40人	6,000
サッカークリニック <del>(定期)</del> の開催	習い事に通うことができない家庭の子供たちへ参加費無償のサッカー教室を定期開催し、疑似的な習い事の体験機会を提供(開催場所:川崎)	2回/月	神奈川県川崎市	10人	一般募集及びNPO法人キッズドアのサポートファミリー	25人/回×24回	6,000
在日ブラジル人交流企画 <del>との</del>	在日ブラジル人と日本人との交流を図り、双方の理解を深める事業	3回/年	静岡県浜松市ほか	10人	ブラジル人学校の生徒と日本人の子供たち	50人	4,000

## (2) その他の事業

(事業費の総費用【 3,000 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
寄附された物品の販売事業	法人に寄附された物品をオークション等で定期的に販売する	随時	インターネット上	5人	1,500
講演会事業	元ブラジル代表サッカー選手の[REDACTED]による有償の講演会・研修等の実施	随時	全国	4人	1,500

## 令和6年度 活動予算書（その他事業がある場合）

特定非営利活動法人エジミウソンファンズ・アジア

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
<b>【A】 経常収益</b>					
1 受取会費 正会員受取会費 賛助会員受取会費		0		0	0
2 受取寄附金 受取寄附金 施設等受入評価益	5,000,000	5,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000
3 受取助成金等 受取補助金	1,000,000	1,000,000		0	1,000,000
4 事業収益 <small>された物販の</small> 寄附品販売事業収益 講演会事業収益		0	3,000,000 2,000,000	5,000,000	5,000,000
5 その他の収益 受取利息		0		0	0
<b>経常収益計</b>		6,000,000		6,000,000	12,000,000
<b>【B】 経常費用</b>					
<b>1 事業費</b>					
(1) 人件費 給料手当 役員報酬 退職給付費用 福利厚生費		0		0	0
(2) その他経費 会議費 旅費交通費 施設等評価費用 広告宣伝費 印刷製本費 外注費 奨学金	200,000 3,000,000 200,000 100,000 2,500,000 3,000,000	9,000,000	1,400,000 600,000	2,000,000	11,000,000
<b>事業費計</b>		9,000,000		2,000,000	11,000,000
<b>2 管理費</b>					
(1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費		0		0	0
(2) その他経費 消耗品費 水道光熱費 通信運搬費 地代家賃 旅費交通費 外注費	100,000 100,000 500,000 300,000	200,000		800,000	1,000,000
<b>管理費計</b>		200,000		800,000	1,000,000
<b>経常費用計</b>		9,200,000		2,800,000	12,000,000
<b>当期経常増減額 【A】 - 【B】 ・・・①</b>		-3,200,000		3,200,000	0
<b>【C】 経常外収益</b>					
固定資産売却益 過年度損益修正益					
<b>経常外収益計</b>		0		0	0
<b>【D】 経常外費用</b>					
固定資産売却損 災害損失 過年度損益修正損					
<b>経常外費用計</b>		0		0	0
<b>当期経常外増減額 【C】 - 【D】 ・・・②</b>		0		0	0
<b>経理区分振替額 ・・・③</b>		3,200,000		-3,200,000	0
<b>税引前当期正味財産増減額 ①+②+③ ・・・④</b>		-3,200,000		-3,200,000	0
法人税、住民税及び事業税 ・・・⑤ 前期繰越正味財産額 ・・・⑥		0		0	
<b>次期繰越正味財産額 ④-⑤+⑥</b>		0		0	0

## 令和7年度 活動予算書（その他事業がある場合）

特定非営利活動法人エジミウソンファンズ・アジア

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
<b>【A】 経常収益</b>					
1 受取会費 正会員受取会費 賛助会員受取会費		0		0	0
2 受取寄附金 受取寄附金 施設等受入評価益	8,000,000		3,000,000	11,000,000	
3 受取助成金等 受取補助金	1,000,000			0	1,000,000
4 事業収益 <small>寄附品販売事業収益 講演会事業収益</small>		0	5,000,000 3,000,000	8,000,000	8,000,000
5 その他の収益 受取利息		0		0	0
<b>経常収益計</b>		9,000,000		11,000,000	20,000,000
<b>【B】 経常費用</b>					
<b>1 事業費</b>					
(1) 人件費 給料手当 役員報酬 退職給付費用 福利厚生費		0		0	0
(2) その他経費 会議費 旅費交通費 施設等評価費用 広告宣伝費 印刷製本費 外注費 奨学金	500,000 4,000,000 1,500,000 500,000 4,500,000 5,000,000	16,000,000	2,000,000 1,000,000	3,000,000	19,000,000
<b>事業費計</b>		16,000,000		3,000,000	19,000,000
<b>2 管理費</b>					
(1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費		0		0	0
(2) その他経費 消耗品費 水道光熱費 通信運搬費 地代家賃 旅費交通費 外注費	100,000 100,000	200,000	500,000 300,000	800,000	1,000,000
<b>管理費計</b>		200,000		800,000	1,000,000
<b>経常費用計</b>		16,200,000		3,800,000	20,000,000
<b>当期経常増減額 【A】 - 【B】 ・・・①</b>		-7,200,000		7,200,000	0
<b>【C】 経常外収益</b>					
固定資産売却益 過年度損益修正益					
<b>経常外収益計</b>		0		0	0
<b>【D】 経常外費用</b>					
固定資産売却損 災害損失 過年度損益修正損					
<b>経常外費用計</b>		0		0	0
<b>当期経常外増減額 【C】 - 【D】 ・・・②</b>		0		0	0
<b>経理区分振替額 ・・・③</b>		7,200,000		-7,200,000	0
<b>税引前当期正味財産増減額 ①+②+③・・・④</b>		-7,200,000		=7,200,000	0
法人税、住民税及び事業税 ・・・⑤ 前期繰越正味財産額 ・・・⑥		0		0	
<b>次期繰越正味財産額 ④-⑤+⑥</b>		0		0	0

**特定非営利活動法人 エジミウソンファンズ・アジア 設立趣旨書**

私たちが生きる現代の世界各地には、貧困の影響を受ける子供たちが数多く存在します。

これらの子供たちは、多くのチャンスや夢を持つ機会を奪われ、

自身の可能性を十分に発揮することが難しい状況に置かれています。

また、私たちの国、日本においても、家庭の経済的な背景により

多くの子供たちが部活動や習い事を続けられず、その才能や情熱を抑えられている現実があります。

このような状況を受け、私たちエジミウソンファンズ・アジアは

以下の活動を通じて、これらの子供たちに夢や希望を持つことの価値を伝え、

新しい機会を提供することを目的としています。

\* 子供たちに「夢」の持つ重要性やその魅力を伝え、夢を追求する勇気を与える。

\* サッカーを通じて、運動の楽しさや身体を動かすことの喜びを体験させる場を提供する。

\* 経済的背景に関わらず、子供たちがサッカーやその他のスポーツ活動への参加を支援するための奨学金制度の整備

私たちは、上述の活動を通じて、次世代を担うリーダーとなる子供たちの成長と夢の実現をサポートします。

この活動を通して、私たちは一人ひとりの子供たちが持つ無限の可能性を信じ、社会全体での支えとなりたいと思っております。

**申請に至るまでの経過**

2017年2月 エジミウソン財団 静岡県浜松市設立

2019年10月 エジミウソン財団 静岡 解散

2021年9月 一般社団法人エジミウソンファンズ・アジア 設立

2023年3月 第一回奨学金助成（3名）

2023年2月～2023年9月 サッカークリニック8回開催

2024年3月 第二回奨学金助成（7名）8回開催

2023年10月～2024年6月 サッカークリニック

2025年3月 第三回奨学金助成（10名）

2024年8月～2025年8月 サッカーリンク10回開催

令和 7 年 10 月 29 日

設立代表者

氏名 林 善徳